

平成30年度
地域防犯力の向上に関する交流大会
報告書



チーバくん

千葉県環境生活部くらし安全推進課

目 次

1. プログラム	1
2. 出演者紹介	2
3. 主催者あいさつ	4
4. 千葉県内の犯罪発生状況等について	5
5. 第1部 基調講演	12
6. 第2部 事例発表(1)	27
7. 第2部 事例発表(2)	36
8. 質疑応答・統括	44

1. プログラム

平成30年10月31日（水）：千葉市文化センター アートホール

- 1 主催者あいさつ （13：00～）
- 2 千葉県内の犯罪発生状況等について （13：05～）
千葉県警察本部生活安全総務課犯罪抑止推進室長 ^{たかはし}高橋 ^{のぶやす}信安 氏
- 3 第1部 基調講演 （13：15～）
テーマ：「地域の力でできる（すこし科学的な）防犯対策」
講師：科学警察研究所 犯罪行動科学部犯罪予防研究室
特任研究官 ^{はらだ}原田 ^{ゆたか}豊 氏
～ 休憩（10分） ～
- 4 第2部 事例発表 （14：00～）
 - ①小学校での取組事例
テーマ：地域と子どもがつながる防犯教育の在り方
～『聞き書きマップ』を活用して～
講師：成田市立向台小学校 教諭 ^{くろだ}黒田 ^{ともや}智哉 氏
 - ②防犯団体での取組事例
テーマ：安全なまちづくりと地域力
～防犯活動で人と人を繋ぐ安全の架け橋～
講師：NPO 浦安防犯ネット 代表 ^{むらせ}村瀬 ^{けいこ}恵子 氏
- 5 第3部 質疑応答・統括（14：40～）
講師：科学警察研究所 犯罪行動科学部犯罪予防研究室
特任研究官 ^{はらだ}原田 ^{ゆたか}豊 氏
- 6 閉会 （14：50）

2. 出演者の紹介

基 調 講 演

テーマ：「地域のできる（すこし科学的な）
防犯対策」

講 師：科学警察研究所

犯罪行動科学部犯罪予防研究室

特任研究官 はらだ 原田 ゆたか 豊 氏

- ・ 1956年大阪市に生まれる。学術博士（犯罪学）。専門は犯罪社会学。79年東京大学文学部社会学専修課程を卒業、科学警察研究所に入所。86年8月から2年間、フルブライト奨学生として米国ペンシルベニア大学犯罪学・刑法研究所に留学。
- ・ 留学中に書いた研究論文“Modeling the Impact of Age on Criminal Behavior: an Application of Event History Analysis”が、日本人としては初めてアメリカ犯罪学会の最優秀学生論文賞を受賞。2000年8月にペンシルベニア大学から博士号を取得。
- ・ 科学警察研究所犯罪予防研究室長、犯罪行動科学部長を経て、2016年4月から現職。犯罪・非行の経歴の縦断的分析、GISを用いた犯罪の地理的分析など、先進的な手法による実証的犯罪研究に取り組むとともに、防犯まち歩き支援ツール『聞き書きマップ』の作成と公開などを通して、研究成果の市民への還元に努めている。

事例発表

①小学校での取組事例

テーマ：地域と子どもがつながる防犯教育の在り方

～『聞き書きマップ』を活用して～

講師：成田市立向台小学校 教諭 黒田^{くろだ} 智哉^{ともや} 氏

②防犯団体での取組事例

テーマ：安全なまちづくりと地域力

～防犯活動で人と人を繋ぐ安全の架け橋～

講師：NPO 浦安防犯ネット 代表 村瀬^{むらせ} 恵子^{けいこ} 氏

成田市立向台小学校 教諭 黒田 智哉 氏

- ・成田市立向台小学校は平成29年に文部科学省の防災モデル校として指定を受け、黒田氏は担当として総合的な学習の一環として、原田先生が発案した『聞き書きマップ』を作成する授業を展開。

NPO 浦安防犯ネット 代表 村瀬 恵子 氏

- ・日本市民安全学会常任理事、警察政策学会、日本医療マネジメント学会、浦安市安全安心まちづくり推進協議会副委員長、浦安市介護保険認定審査委員、慈慶会グループ評議委員、ベイエリア連携の会事務局兼代表世話人。
- ・NPO 法人医療福祉連携士の会理事、我孫子市福祉作業所指導員を経て、新旧資格取得後八幡宿整形外科内科勤務、1991年4月より葛西昌医会病院に勤務、医療支援課地域連携室担当課長として現在に至る。

著作に『医療アドミニストレーター』、『医事業務』、『地域連携 入退院と在宅支援』日総研など。寄稿『聞き書きマップでこどもを守る科学が支える子どもの被害防止入門 / 原田豊 [本]』

3. 主催者あいさつ

千葉県知事 森田 健作

千葉県では県民皆様の安全で豊かな暮らしの実現をめざし、暮らしの安全・安心を実感できる社会づくりに向け、地域防犯力の向上を図るため各種施策に取り組んでいるところでございます。

この「地域防犯力の向上に関する交流大会」は、地域の防犯活動の活性化を図るための、重要な施策の1つでございます。

本日はご多忙の中「地域防犯力の向上に関する交流大会」にご参加いただき、誠にありがとうございます。また、日頃から防犯パトロール活動にご尽力いただき、深く感謝申し上げます。

本県の犯罪認知件数は、皆様のご協力もあり、この15年間減少傾向にあります。しかしながら「電話de詐欺」など、高齢者を狙った卑劣な犯罪は後を絶たず、地域の将来を担う子供たちの安全を脅かす事件も発生しています。



県では地域防犯力の向上に向け、市町村の「防犯ボックス」設置に対する補助を実施しており、県内の防犯ボックスは本年4月の茂原市、君津市の設置により10か所となりました。防犯ボックスを拠点に合同パトロールを実施するとともに、パトロール資機材や防犯カメラの整備を促進するなど、地域の防犯力向上を図っているところです。

今後とも、市町村や警察等と連携し、安全で安心な地域社会の実現に取り組んでまいりますので、皆様におかれましても、より一層のご尽力を承りますよう、お願い申し上げます。

結びに、本日お集まりの皆様のますますのご活躍、ご健勝を祈念申し上げまして、挨拶といたします。

(石渡 敏温 生活安全・有害鳥獣担当部長代読)

4. 千葉県内の犯罪発生状況等について

千葉県警察本部生活安全総務課犯罪抑止推進室長 高橋 信安 氏

皆さん、こんにちは。警察本部生活安全総務課におきまして、犯罪抑止対策を担当しております高橋と申します。どうぞよろしくお願いたします。まずもって皆様方には県内各地域において、警察業務各般にわたり多大なるご理解とご協力をいただいていることに関しまして、この場を借りて御礼を申し上げます。本当にいつもありがとうございます。

今日、私からは千葉県内の犯罪情勢と、今非常に被害が多く発生している「電話 d e 詐欺」の状況に関して、最後に皆様方に「今後の活動に対するお願い」についてお話をさせていただきます。

●県内の治安情勢

まず、県内の治安情勢ですが、治安のバロメーターと呼ばれている「刑法犯認知件数」という統計数値がございます。これは、犯罪の被害に遭われた方が、警察署に被害に遭われたことを届け出た件数になります。千葉県内では、戦後に最多を記録したのが平成14年でありました。これは千葉県内で約16万8,000件発生しましたが、この翌年の15年から昨年までの15年間、連続して刑法犯認知件数は減少しております。

今年も9月末現在の認知件数結果が出ていますが、同じ時期に比べ昨年より1割ほど減少しております。残り2か月となりますが、認知件数については16年連続の減少が見えてきたところです。

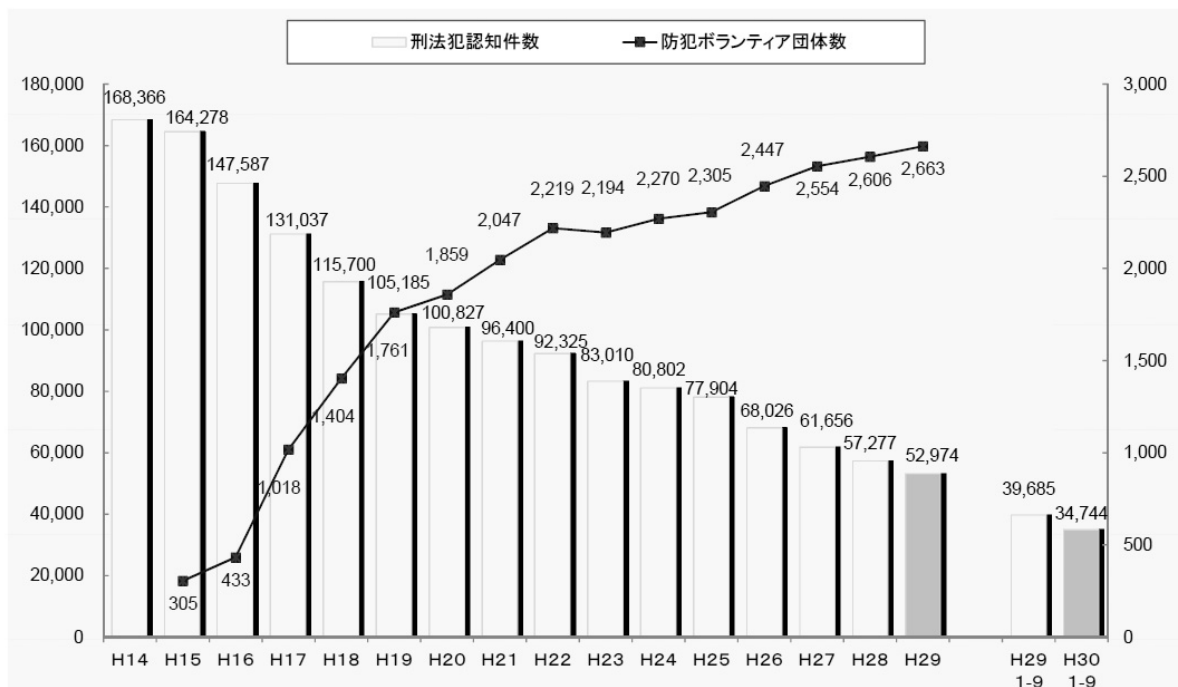
ご覧いただくとわかるように、平成29年の認知件数は約5万3,000件でした。ピーク時が16万8,000件でしたから、この間に約3分の1弱まで犯罪が減ったという状況がわかると思います。

●防犯ボランティア団体数の推移

もう1つグラフがありますが、折れ線で示しているのは「防犯ボランティア団体」の推移を表したものです。今日ご来場の皆様は各地域で防犯ボランティア活動にご尽力いただいていると思いますが、治安回復元年として犯罪抑止対策に取り組んだ平成15年以降、防犯ボランティア団体の数は軒並み増加をしております。

発足時に比べて、数としては昨年までに約9倍に増えています。表を見ていただくと、ボランティア団体が右肩上がりが増えたのと同時に、それに反比例して犯罪の発生状況が減っていることが、よくおわかりいただけたと思います。

千葉県の刑法犯認知件数及び防犯ボランティア団体数の推移



防犯ボランティア活動は、様々な地域で行なっていると思いますが、地域によっては自分の車に青色回転灯をつけて地域の安全パトロールをしていただいたり、市町村が保有する青色回転灯のパトカーを活用してパトロールいただいたり、あるいは昼夜に町会の方々と地域をパトロールいただくなど、様々な活動をしていただいています。

しかしながら、ご記憶にも新しいと思いますが、去年3月に松戸市において通学途中の女子児童が誘拐され殺害されるという、非常に痛ましい事件が発生いたしました。

また、他県にはなりますが、本年は新潟県内でも同様の事件が起きています。そこで、今は「登下校時の児童をいかに見守るか」「いかに救うか」という活動に重点をおいて、地域の方々にご協力をいただいているところでございます。

●「ながら活動」について

今、皆様をお願いしている対策としては、皆さんが日々活動する中で、例えば犬の散歩や買い物、ジョギングといった日常生活の中で、子供の安全というものに目を向けていただきたいことです。「何々をしながら」という形で、犬の散歩をしながら、ジョギングをしながら、ちょっと視線を子供にあてて見守りいただくという、「ながら活動」「ながら見守り活動」にご協力いただけないかということです。こちらを各地域でお願いしております。

特に犬を飼われている方は、朝晩に散歩をされると思いますから、ちょうど児童の登下校時に散歩の時間帯が重複することがあると思います。

そこで、県の獣医師会にご協力いただき、「わんわんパトロール」というものの普及促進活動に力を入れているところです。皆様方もご自分の地域で、朝夕の犬の散歩時には通学途中の子供に声をかけたり、見守る活動をしていただくと非常に助かりますので、一つよろしく願いいたします。

愛犬の散歩を利用した「わんわんパトロール」運動



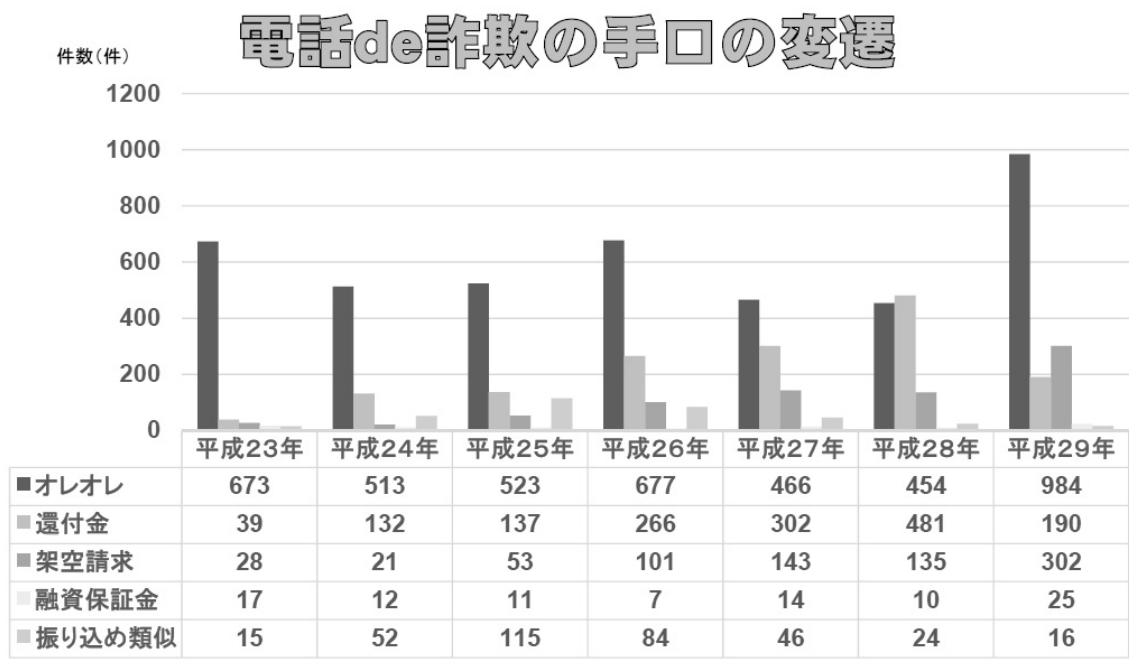
●電話 d e 詐欺の発生状況について

ここまでは「刑法犯認知件数は減少している」という話をいたしました。が、刑法犯が減る中で、非常に被害が多く発生している「電話 d e 詐欺」の話をさせていただきます。今、「電話 d e 詐欺」は非常に被害が深刻です。全国における昨年の認知件数は1万8,000件余りでしたが、これは7年連続で増加の一途をたどっております。

千葉県においても昨年の発生は1,517件という過去最悪の被害件数で、31億1,000万円の被害額が出ております。今年の状態はどうかと申しますと、今年も前半は去年を上回るペースで発生しておりました。そこで皆様方をお願いして、自らの手で「電話 d e 詐欺」に遭わないような対策というものを呼びかけました。

また、企業にも呼びかけて防止対策を推進いただいた結果、ようやく対前年比は若干減少しましたが、9月末現在では925件、18億7,000万円の被害が未だに出ているような状況です。

●電話de詐欺の手口について



平成29年中の特徴

- ・オレオレ詐欺が急増(特にカード受取型が増加)
- ・オレオレ詐欺と架空請求で全体の8割以上の被害
- ・還付金詐欺が減少

この表ですが、今「電話de詐欺」は様々な言い方をされています。千葉県の名称としては「電話de詐欺」と言っていますが、全国的には「特殊詐欺」、身近なところでは「オレオレ詐欺」「振り込め詐欺」という認識をされている方も多いと思います。

この「電話de詐欺」の手口は、ほとんどが「オレオレ」という手口になります。皆様の家に電話をかけて、子や孫を騙って「オレオレ」という従来型の手口があります。

「実は、会社の金をなくしてしまった」「女性を妊娠させてしまった。何とかならないか」「お金を貸してくれないか」という従来型の手口も未だに発生しており、被害も相当に出ています。

ただし、このオレオレ詐欺の手口は急速に変わっているのです。昨年から非常に多くなっているのは、警察官、銀行員、百貨店の名を騙って皆様のご家庭に電話をかけてきて、様々な文言はありますが、最終的には「皆様が持っている銀行のキャッシュカードをお預かりします」「キャッシュカードを最新のものに替えます。その手続きのためにキャッシュカードをお預かりに行きます」「キャッシュカードの登録番号を変える必要が

あるので、暗証番号を取りに行った者に教えてください」という手口が最新です。この被害が非常に多いのです。

そして、この犯罪が非常に厄介なところは、被疑者がターゲットとした被害者のところに電話をして、いろいろな手口でだますことです。「今からキャッシュカードを取りに行きますね。取りに行った者に渡してください。その時に暗証番号を教えてください」と言って取りに行き、キャッシュカードを渡された被疑者が近くのコンビニエンス・ストアで現金を引き出すのですが、電話をかけてから現金を引き出すまでに平均で1時間しかありません。1時間しかないのです。

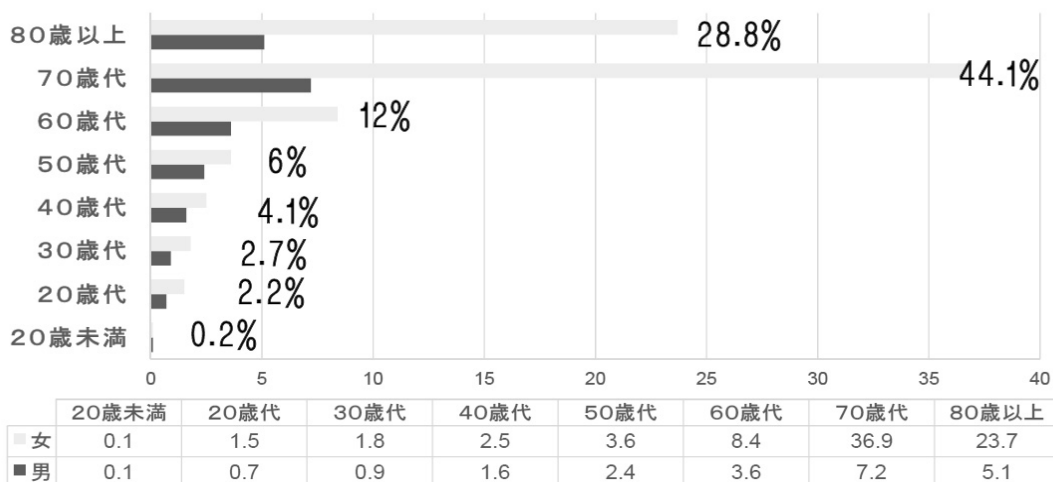
ですから、皆さんが「だまされているのではないか」「ちょっとおかしいな。通報しようかな」と思うような間合いを与えないのです。そういう形で被害が出ており、これが非常に多く発生をしている手口なのです。

この他にも、いわゆるハガキを使って「このような未払い金があるので、現金をお支払いください」とか「振り込んでください」という手口もあります。あるいはコンビニエンス・ストアに行くとき電子マネーを売っていて、アマゾンギフトカードやアップルカード等が買えるようになっています。そういう電子マネーを買って番号を電話で教えることで、お金をだまし取られるような手口も非常に多く発生しているのが現状です。

どうか皆さん、「キャッシュカードを交換します」「暗証番号を教えてください」などという話は、どこの組織や企業からも絶対にならないと思います。絶対にだまされないでください。よろしくお願いします。



電話de詐欺被害者の年齢及び男女別割合



70歳代が全体の約半数を占めており、被害者の多くが女性

●電話 d e 詐欺の被害者層について

次になりますが、これは被害者の年齢と男女別の割合に関してまとめた表になります。一目瞭然かと思いますが、圧倒的に70代以上の女性が被害に遭っております。やはり地域の高齢者を狙い、名簿等を使って電話をかけたり、ハガキを出すという犯罪者の手口があるため、このような結果になっていると思います。やはり、高齢で単身世帯の方が被害に遭っている状況が、グラフからもおわかりいただけると思います。

県警としましても、これまでの相談専用ダイヤルのほか、各地域に注意喚起するコールセンター事業などを運用して被害防止対策を働きかけています。しかし、手を替え品を替えではありませんが、犯行グループの手法は非常に言葉巧みであるため、だまされたり被害に遭う方が発生しているような現状があります。

●「電話 d e 詐欺」は「電話 d e 対策」

では、この「電話 d e 詐欺」をどう防ぐかということです。いろいろな対策を行なっていますが、一番良いのは「電話 d e 詐欺の犯人とは話をしない」ということです。大切なのは「話をしない」ということなのです。ほとんどのケースでは電話をかけて来て、いろいろなだまし文句でだまされてしまうわけです。

どうか皆さん、今日は「電話 d e 詐欺は電話 d e 対策！」というキャッチフレーズを覚えて帰ってください。

先ほども申しましたとおり、犯人からの最初のアプローチはほとんどが電話であって、固定電話機にかかって来て、その電話に出ることでだまされるのが被害の現状になります。だまされてしまった方でも、「オレオレ詐欺」や「振り込め詐欺」の被害状況については、皆さんご存じでした。

でも、相手と話をすると、必然的に被害に遭ってしまうわけです。犯行グループはそれだけ言葉巧みにだまして来ます。ですから、犯行グループとは話をしないことを徹底する意味でも、是非高齢者世帯を中心に、家の電話は常に留守番電話設定にいただけたら良いかと思います。この対策を今は勧めています。

「留守番電話設定なんかになると不便で仕方ない」という話もよく聞きます。しかし、皆さんに電話をかけてくるのが本当に用事のある方ならば、きちんとメッセージを残していただければと思います。また、留守番電話設定にしてあっても、録音中に相手を確認できれば、その時点で受話器をとって話をすることもできます。是非とも留守番電話設定をご利用いただき、被害防止にご注意いただければと思っております。

「電話 d e 詐欺」を防ぐには、皆様のご協力に加え、各自治体や県民の皆様が総ぐるみで力を合わせる事が非常に大切だと思います。本日お集まりの皆様は、各地域で防犯活動に尽力されている方々であると承知しています。

地域に戻られましたら、是非とも高齢者世帯を中心に「電話de詐欺は電話de対策!」「常時、留守番電話設定にしてください」と働きかけていただき、被害を1つでも少なくしたいと考えております。引き続きご協力のほど、よろしくお願いいたします。

結びに、本日お集まりの皆様のますますのご活躍とご健勝を祈念し、私の話は終わりにさせていただきます。どうか皆さん、引き続きご協力のほど、よろしくお願いいたします。

電話de詐欺は電話de対策!

なぜなら

詐欺犯人はだますのがとてもうまい!

そして

手口を知っていても、犯人の巧みな話術でだまされる。

だから

犯人と話さなくて済むよう、固定電話機の対策が大切!



「固定電話機の対策」とは??



例えば



在宅中も留守番電話設定

こうすると「いつかけても留守番電話・・・だませないからほかの家にかけよう・・・」となり、被害者と話せないため犯人はだますことができません⇒犯人撃退!



迷惑電話対策機器の導入

このような機器を利用すると、警察などが提供している犯人利用の電話番号や迷惑電話番号から電話がかかってきても自動判別して呼出音を鳴らさずブロックしてくれます。結果、被害者と話せないため犯人はだますことができません。⇒犯人撃退!

5. 第1部 基調講演

テーマ：「地域の力でできる (すこし科学的な) 防犯対策」

講師：科学警察研究所 犯罪行動科学部犯罪予防研究室

特任研究官 原田 豊 氏

皆様、こんにちは。ご紹介いただきました科学警察研究所の原田と申します。今日、私からは「地域の力でできる（すこし科学的な）防犯対策」という題でお話をさせていただきたいと思います。

私の勤務先の科学警察研究所は大変知名度の低い組織ですが、ここに示しましたように、実は千葉県柏市の外れにあるのですが、「千葉県は私たちの地元」というつもりですから、今回地元の皆さんにお話をする機会を与えていただいて、大変光栄だと感じています。

さて、今日のお話ですが、なぜ「すこし科学的な」防犯対策を提案させていただくのか、それを最初にお話させていただきます。先ほど警察の担当の方からもお話があったように、最近子どもたちが犠牲になるという大変痛ましい事件が次々起こっています。

小さな子どもはどうしても弱い存在となりますから、これを守るためには、やはり大人たちが力を合わせて取り組む必要があるのだと思います。

ただ、大人は大人としてそれぞれの立場も考え方も違いますから、力を合わせようと話し合いの機会を持って、意見の言い合いになってしまったり、なかなかまとまらずに困るという話もたまに聞きます。

●機会が犯罪を作る

そういう時に、では「犯罪の被害が起こるのは、どんな時か」と言うと、私たちが勉強してきた「犯罪学」という学問分野においては、こういう言葉で言われています。それは「機会が犯罪を作る」ということです。機会とは要するにチャンスのことです。

どういうことかと言うと、やはり犯罪者は捕まりたくないわけですから「上手くやれば上手くできそうだ」と隙を狙っているのです。「ベンチに物を置いて行った。しめしめ」「子どもが一人で公園で遊んでいる。しめしめ」「車のドアロックをせずに物が置いてある。しめしめ」というように、大概の犯罪は「しめしめ、チャンスだ」というところから起こるのです。

「機会が犯罪を作る」



たいていの犯罪は、
「しめしめ、チャンスだ」から起こる



「チャンス」を減らせば、被害は防げる！

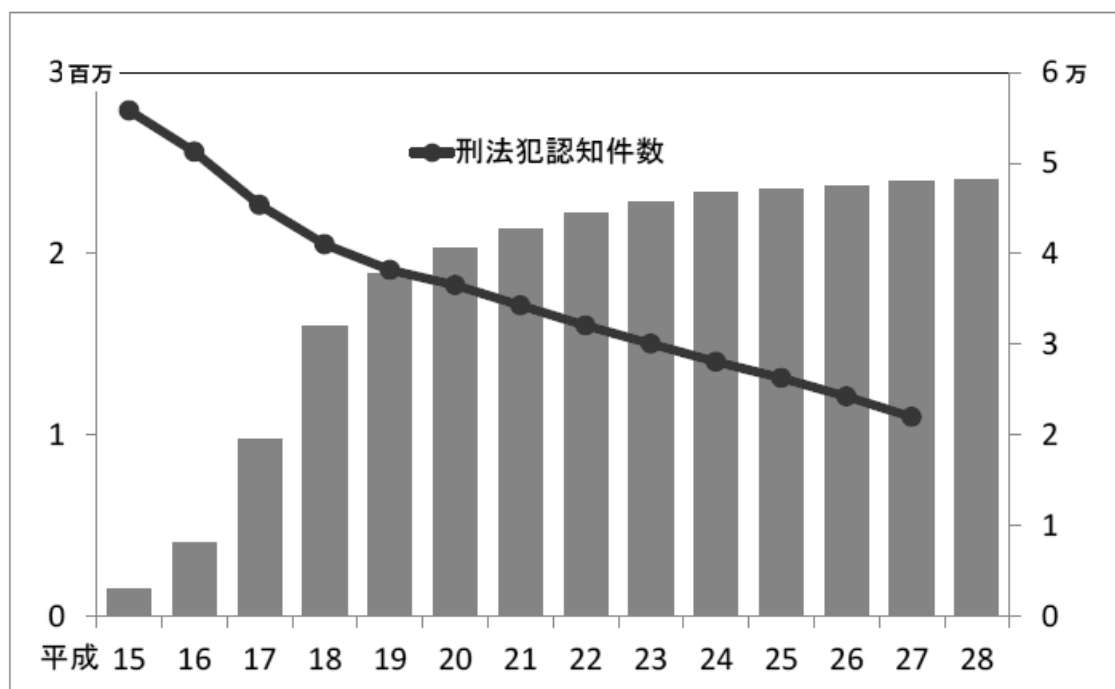


そして、これが「機会が犯罪を作る」という大変有名な犯罪理論になるわけです。こういう理論に基づいて、何をするのかというと「そういうチャンスを減らせば、被害は防げるでしょう」と考えるわけです。

そして、それがまさに皆さんが日々行なってくださる防犯パトロールや、子どもたちの見守りや、車のドアロックをしようという取組みなのです。また、先ほどのお話にあった「電話de詐欺」を防ぐという対策も、「犯罪のチャンスを減らす」という犯罪研究で裏付けのある考え方に基づいているのです。そう考えていただくと、いろいろな意見の違い等はあるにしても、「こういう考え方に基づいて皆で力を合わせよう」という際に、1つのヒントになるような気がします。

防犯ボランティア団体の数と犯罪件数の推移

市民主体の防犯活動の隆盛と逆比例する形



出典：(1) 警察庁編「平成27年の犯罪」(<https://www.npa.go.jp/toukei/soubunkan/h27/h27hanzaitoukei.htm>)
 (2) 警察庁編「防犯ボランティア団体の活動状況について」(平成29年3月：数値は平成28年末現在)

こうした皆様方の取り組みに関しては、実際に警察庁でも毎年の統計を取っています。ここに示したグラフはずっと右肩下がりとなっていますが、これは全国の犯罪発生件数になります。平成14年、15年ぐらいが戦後最悪と言われた状況ですが、それがずっと下がってきています。

このように犯罪件数が下がっていることのもう1つの側面としては、皆様のように防犯ボランティア活動に取り組む団体数はずっと伸びていることがあります。それとちょうど逆比例する形で、日本の犯罪は少なくなっているのです。まさに皆様の取り組みが世の中の犯罪を減らし、世の中の安全・安心に貢献している裏付け証拠になっている気がします。このように、日本の犯罪は、全体としては以前よりずっと少なくなってきました。

話は少し戻りますが、去年から今年にかけて、小さな子どもが被害に遭うという痛ましい事件が次々と起きています。そして、それが学校への登下校の時間なのです。学校に通うというのは、すべての子どもが毎日行なっていることです。そういう通常の日常生活の中で、とんでもない被害に遭うというのは大変痛ましいことです。これは、何とかしなければならないことだと思います。

●登下校の時間帯が危ない

ただ、学校への行き帰りがとても注意を要し、ある意味で危ない時間帯だということは、こういった事件が起きているからだけではありません。これは、今年アメリカで出たばかりの最新の犯罪研究でも示されていることです。

それによれば、普段の生活で家にいたり、普通に余暇活動をしている時間と比べると、学校の行き帰り中の時間は被害に遭う経験が4倍ほど高いと言います。学校の行き帰りに関しては、こういった最新の犯罪研究成果を踏まえても、是非これからもしっかりと、子どもの被害防止のため取り組みを進めていかなければなりません。

では、「実際にそれを行うと効果があるのですか」という話も時々聞きますが、こちらも欧米の研究で効果のあることが示されています。

●見守り活動の効果

アメリカで2016年に出版された研究書によれば、地道な近隣の見守り活動が、最近注目されている防犯カメラと比べても、多少ですが「犯罪を未然に防ぐ効果が高い」とされています。

このような科学的な研究から見ても、皆様が日々取り組んでくださる地道なパトロール活動や見守り活動、特に子どもの登下校時の被害防止活動というのは、極めて大切であって、しっかりと効果が期待できることが示されていると思います。

こういった科学的なやり方というのは、最初に申し上げたように、多くの人が力を合わせるために役立ちます。科学的な方法には、誰もが納得できるという、大きな強みがあります。けれども、やり方によっては、やたらと難しかったり、手間やお金がかかり過ぎるということになれば、「やっぱり現実にはそんなのは無理」だとか、「役に立たない。この先生は現場を知らないのね」などと言われたりもします。

私自身も「先生、それで論文を書くのでしょうか」と言われたことがあります。「はい、ごめんなさい」という部分もありますが、それで終わってしまうと、科学的な研究が、本当の意味で犯罪被害の減少に役立つものにならなくなってしまいます。

●（すこし科学的な）防犯対策

そこで、今日は、いろいろなやり方のうちの1つとして、できるだけ現場に合ったものをご紹介したいと思います。様々な制約のある現場では、身の丈に合った取り組みでなければ長続きしませんから、持続できるような方法を提案したいと考えるわけです。それが、最初にタイトルで書いた「（すこし科学的な）防犯対策」という意味になります。

それを実施するのに大切なのは何かというと、今まで皆さんがなさってきたことを根本から変えるのは、簡単にできることではないと思います。これまでのやり方には「こう

したら上手くいく」というそれなりの理由があって、今のようになっているはずだと思うからです。

だから、そのやり方をなるべく変えないということがすごく大切なのだと思います。そしてもう1つ大切なのは、全く変えないのではなくて、「少し変えたらもっと楽にできる」「もっと上手くいく」という目のつけどころを見つけることだと思います。

例えば、防犯パトロールを例にお話をしてみますと、本当に毎日取り組んでいただいて、ありがたいことだと思っております。ただ、実際になさっているグループの方にお話を聞くと、今日などはパトロールをしていても大変気持ちの良い天気ですが、時によっては雨や雪の日もあると思います。

まちの安全点検となれば、どうしても日にちを決めて行いますから、下手をすると台風が来ることもあるわけです。そうすると傘をさしながら、地図を持ちながら、ということで、メモを書こうとしても紙が濡れてしまいます。紙が濡れてしまうと鉛筆書きができず、無理をして書くと破れてしまい、次第にしんどくなるという話を私もよく聞きます。

また、これも聞いた話ですが、放置自転車が1つあると、そこに2台、3台と次々に同じような放置自転車が置かれ、次第にその辺りが見苦しくなってきます。そして今度はゴミを捨てる人も出てくるなど、問題が一層こじれてきます。

これを「何とかしたい」と思っても、「それはどこなの」「いつのことなの」ということで、他の人になかなか伝わりにくいという話も聞きます。そうすると対策を取ることが難しく、行政や警察にお話をしても、今一つ前向きに受けとめてもらえないという話も聞いたことがあります。

そういった時に、「こういう感じの地図で示したらどうか」というのが今日の提案です。

でも、こんな地図で示したら・・・



どこに、いつ、どんな問題があったのかが、一目でわかる！

つまり、歩いて回ったり見て回ったところが地図上に線で表示されるのです。これは以前のもので線がかなり乱れていますが、GPS受信機を使うことで、人工衛星の電波によって位置が取れるのです。そういうものが今は安く出回っているので、それを持って歩きます。そして写真を撮るとその場所にピンが立ちますから、「ここは何々だった」という内容が地図上で見えるようになります。こういうものを簡単に作って、誰にでも見てもらえるようになれば、「この場所で何月何日の何時何分にこんなことがありました」というのが、行政や警察も含めたいろいろな方に伝わると思います。「なるほど。これは何とかしなくてはいけないね」と、一目で伝わるものになると思います。

そういうものを何とか手軽に行えるようにしたいと考えました。手間がかかるとそれだけで嫌になりますから、手間をかけずにできるようになればということで、私たちが開発しご提案しているものを今日をご紹介します。それは『聞き書きマップ』というパソコン用のソフトで、今はスマートフォン版もあります。こういうソフトがありますので、今日はそれについてご紹介したいと考えています。

●『聞き書きマップ』について

この『聞き書きマップ』を使うと、安全点検などで歩いて回った経路がGPS受信機によって自動的に記録されます。通常、安全点検では現地の写真を撮りますが、写真を撮る

とその場所がピンの形で地図の上に示されます。そして、そこでどんなことがあったのか簡単に記録できるのです。

具体的に言いますと、今このGPS受信機は1個5,000円程度で手に入ります。そういうものを持って歩くだけで、「どこを何時何分に歩いたか」というのが全部データになるわけです。つまり、持って歩くだけで「どこの場所を通ったのか」ということが、何もしなくても記録できるわけです。

また、デジタルカメラで写真を撮ると、デジカメは必ず時計を内蔵しているため、何時何分何秒に撮ったのかという記録ができます。そして、その写真をどこで撮ったのかということも、写真の撮影時刻をGPSの情報と突き合わせることで、自動で判定できるのです。この「自動でできる」というところが大変重要だと思います。

さらに、今はこういう録音機が通販でも2,000円程度で売っていますから、すごく安く手に入ります。普通なら現場で手書きでメモ書きするところを、声で全部録音するやり方を提案しています。そうすることで、雨が降ったり台風が来たとしても、喋るだけですから傘を持ちながらでも十分にできます。

そして、そこで録音したのですが、まち歩きが終わって帰って来てから、写真の撮影時刻で、録音の「頭出し」をすることができます。

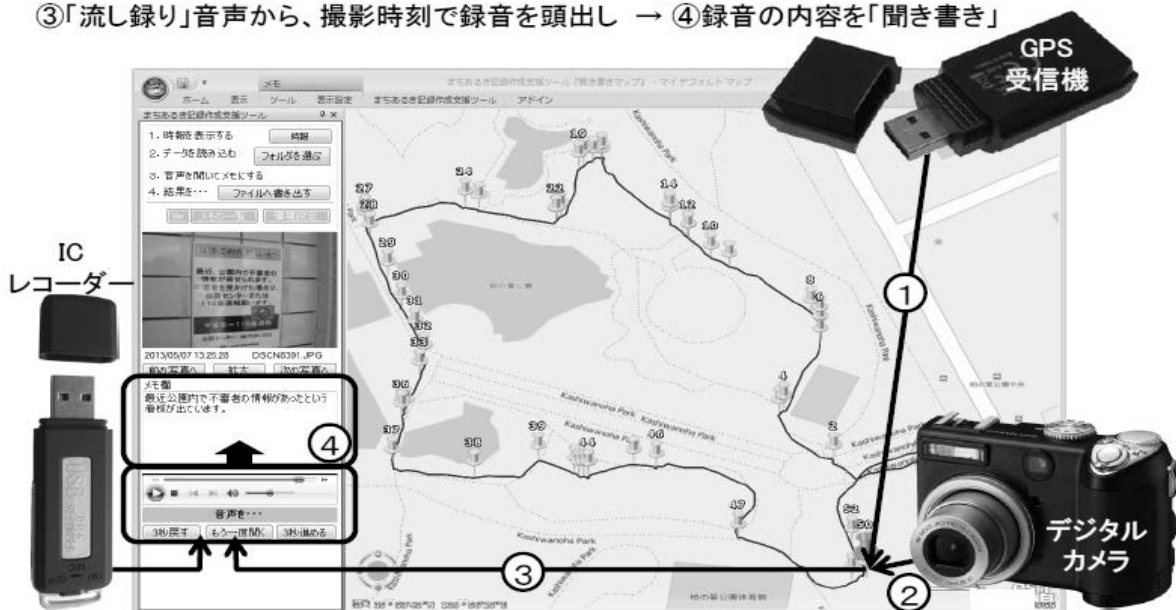
つまり、この「次の写真へ」というボタンをクリックすると、写真が切り替わるのと同時に、音声も写真を撮影した時刻までジャンプします。それがこの『聞き書きマップ』の1つの特徴になります。

まちあるき記録作成支援ツール『聞き書きマップ』

「安全点検地図」で、関係者の情報共有・連携したとりくみを実現

『聞き書きマップ』による安全点検まちあるきの地図化の手順：

- ①GPS受信機で歩いた経路を記録 → ②撮影時刻で撮影地点を自動判定
- ③「流し録り」音声から、撮影時刻で録音を頭出し → ④録音の内容を「聞き書き」



そうすることによって、写真を撮った時に喋った内容を、すぐ聞き直すことができます。まち歩きから帰って来て、聞き直ししながら要点だけをこの「メモ欄」に書き起こしていきます。そうすれば、現地で雨の中、傘をさしながらメモを取る必要が全然ありません。こういうことができるのが『聞き書きマップ』というソフトになります。

では、実際にどういう感じのものなのか、ちょっと動画でご紹介をしたいと思います。

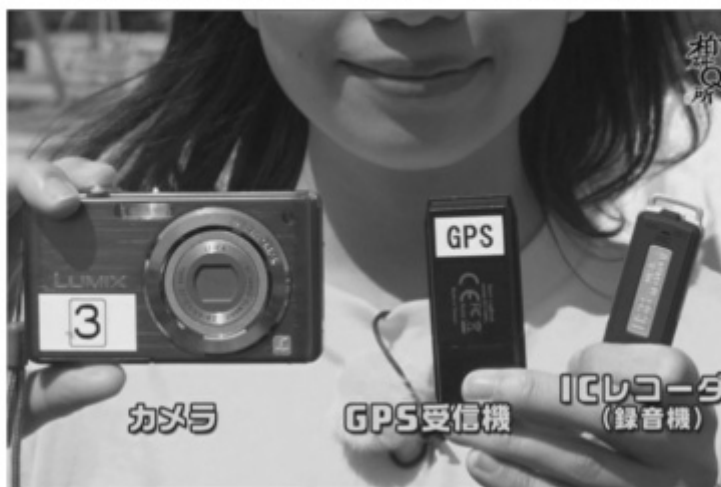
【動画再生】

(ナレーション) 柏市にある科学警察研究所、警察庁の附属機関として広範囲にわたる業務を行っています。原田先生は子どもたちを守る『聞き書きマップ』というパソコン用ソフトウェアの生みの親。これは街にひそむ危険を点検できるソフトなのです。どういうものかと言うと、まずは「カメラ」と「GPS受信機」「ICレコーダー」の3つを持って街に出ます。

(男性レポーター) 行きましょう。

(女性レポーター) はい。

現地では…
写真を撮って「つぶやく」だけ。



出典: 柏市広報番組「カンケン」: 第46話「未来を担うキッズを守れ! 柏の防犯力」
<http://www.city.kashiwa.lg.jp/soshiki/020300/p035201.html>

(ナレーション) そして事件や事故が起きそうな危険な場所など、気づいたことをメモする代わりに音声で録音します。

(女性レポーター・録音) 「この道は民家がありません、人や車の通りが少ない人目につかない道です」

～場面変更～

(女性レポーター) すみません、この辺の道で何か気づいたことはありますか。

(地域の方) そういえば、なにか不審者がいるって聞いたことはあるよね。

(地域の方) そうね。ここね。

(女性レポーター) えっ、不審者？

(地域の方) 何かちょっとハゲていて丸い眼鏡をつけた人だって聞いたことがあります。

～場面変更～

(録音再生) 「この道は民家があまりなく…」

(ナレーション) 録音した内容を書き込んだものは、写真や歩いた跡とともに地図データの形で保存できます。だから、いつどこを歩いて現地の状態がどうだったのか、一目でわかる安全点検の地図となるのです。

【動画終了】

大体こんな感じのものになります。そして、今、私たちが取り組んでいるのは「この仕組みを小学校の子どもたちに使ってもらおう」ということです。今日もそれをこれまで取り組んでくださった小学校の先生がご紹介くださいますが、学校の先生方と一緒に
行なっている一例をご覧に入れます。こんな感じになります。

【動画再生】

(子ども・録音) これから、フィールドワークを始めます。

(子ども・録音) ここの交差点は、車が通って危険です。

(子ども・録音) 工事現場です。工事をしているときに大型のトラックなどが入ってくるので危険です。

(子ども・録音) お寿司屋さんの前です。レンガみたいな石が倒れているので、ぶつかったりすると大ケガをしてとても危険です。

【動画終了】

こんな感じです。この3人組は小学校4年生で当時は10歳でした。今はもう中学生になっているはずですが。10歳の子どもたちでも、このぐらいはできてしまうということで、本当に学校の先生方が一生懸命に指導してくださった賜物でもあります。

ただ、それと同時に『聞き書きマップ』では、すべてを機械でやってしまうことはなるべく避けようと思っていて、先ほどの「デジカメ」や「GPS受信機」「録音機」等を使って取得したデータは、パソコン取り込み後はできるだけ迅速に紙に打ち出すようにしています。

ここはちょっと字が小さくて見づらいのですが、そうすることで各々の写真に聞き書きしたメモが入っているものを、カードのような形でプリントアウトできます。このカード

には番号が入っていて、見ていただくとわかるのですが、地図上にも番号のついたピンが立っています。そこで、大きい模造紙の中央に地図を貼って、周りにこれらのカードを並べて、同じ番号のピンと線で結びます。

そうすると、たとえば「14番はここだね」ということで、ここは公園の遊具のあるところですが、所々壊れたりしているので、「遊具が壊れています」といった形で記載すれば、本当に安全点検結果の地図があつという間に作れてしまうのです。

また、最後の仕上げは紙とハサミや糊を使って行うため、全員参加でできるのです。小学生でも同じようにワイワイ、ガヤガヤと「ここはこうだったよね」「ああだったよね」と言いながら作ることができます。場合によっては作業をしながら思い出すこともありますから、付せん紙を用意しておいて、改めて思い出したことを書き足しても良いのです。

地図の仕上げは手仕事で。

同じ番号のカードとピンを
線で結ぶだけ！



子どもたちが行くと漫画を描いたりする子もいて、それがまたすごく可愛く面白いのです。こういった紙の手仕事の良さには本当に大きいものがあります。何よりも大きいのは、そこで話し合いが生まれることです。そういう部分をできるだけ多く取り入れようとしています。

●「地元の知恵」の継承

加えて、もう一点大切なことがあると思います。これは実際に私が経験したことです、「この場所で8年間子どもの見守りをしています」という地元の自治会の年輩の方と一緒に歩いた時に、その方が、ある交差点付近の道幅が狭く、見通しが悪くて、子どもたちの

登下校のときには危ないことが何度も起こったと、詳しく語ってくれました。最近流行のテレビ番組「ブラタモリ」で話をしてくれる地元の人のように、滔滔(とうとう)と語ってくださるのです。

そうすると、地元でボランティア活動をしてくださっている方が、どれぐらい地元のことをよく知っていて地元を愛しているのか、それがひしひしと伝わってきます。肉声ですから、それが言葉を通じて伝わってきます。

それを聞いた人は、「このおじいちゃん、すごい」ということで、きっと「目はぱっちり」「口はあんぐり」となると思うのです。実際に小学校で子どもたちが行なった実例をご覧にいただけますが、こんな感じになります。

【動画再生】

(子ども) こんにちは。西海神小学校の4年生です。少しお話を伺ってもよろしいでしょうか。

(地域の方) はい、よろしいですよ。

(子ども) インタビューの様子を写真に撮らせていただいてもよろしいでしょうか。

(地域の方) はい、いいですよ。

(子ども) 私たちは、いま犯罪や事故の起こりやすい地域の危険な場所を調べていますが、何か知っている場所はありますか。

(地域の方) これはすぐポロッと取れるのです。それで、これを抜いてガシャンと割るイタズラが今年は16件あって、被害額で60万を超えました。

【動画停止】

これは、団地の植え込みにある電球のことを言っています。

【動画再生】

(地域の方) ここはドライバーで簡単に鍵があきます。それで、60台が盗難車としてやられました。

【動画終了】

今のは自転車のことです。ママチャリの鍵が壊されて60台も盗まれたということです。後で聞いたら、この方は近所の小学校の先生ということでした。ずい分と詳しいので驚いたのですが、この話には続きがあって、この子どもたちは次にこういうことをやっているのです。今の続きになります。

【動画再生】

(子ども・録音) これは被害によくあう電球です。危険な物です。理由はいっぱい割られているからです。

(子ども・録音) これは自転車です。危険な物です。理由はすぐに鍵が盗られてしまうからです。

【動画終了】

こういう形でその場で教わったことを、これは隣の学校の先生だったのですが、地元の方に教わったことを、子どもたちがすぐその場で復習して、もう一度自分たちの言葉で記録し直しています。そして、自分たちで写真を撮り直し、『聞き書きマップ』のデータを自分たちで作っているのです。こういう取り組みが、今は小学校で少しずつ始まっています。

こういう時に、学校の先生方がどうぞ指導くださっているかと言うと、ただ歩いて自分たちの言葉で記録するのも良いけれど、それだけではないのです。

この映像のように、そこで出会った地域の方や、子どもの見守りをしてくださる方、あるいはコンビニのお姉さんを取材した例もありますが、「そういう人たちにインタビューをしてごらんください」と。

そうすると「そういう人たちが、皆さんのことをどのくらい気にかけて、一生懸命に見守って、大切にしてくれるかわかるでしょう」と指導してくれるのです。これは本当に素晴らしいことだと思います。

こういった子どもたちの取り組みも学校で始まっています。こういう取り組みに関して、もしご興味があれば、皆さんご自身にも『聞き書きマップ』を使っただけであれば大変嬉しいですし、子どもたちも含めた様々な人がそれぞれの立場でこれを使うことで、出会った人にインタビューができたと思います。

顔を合わせてお話をすることで、地元の大人や子ども、PTAのお母さん、学校の先生や防犯ボランティアなどの皆様

が、お互いスムーズに楽しく会話できて、信頼関係が生まれることが大変大切なのだと

子どもたちの取り組みから・・・



地域のみんなとの絆が生まれる！

思います。このように、地域の中での人間関係づくりを育てる道具立ての1つとして、よろしければ『聞き書きマップ』に目を向けていただけると嬉しい気がします。

いろいろなところで私もこういったお話をしていますが、どうしても時間が限られたりしますので、今日は受付に本を置いてあります。去年出版した私の初めての本ですが、見本を1冊置いてありますし、チラシ等も置いてあります。もし、よろしければ手に取ってご覧いただければと思います。あまりに学問、学問した書き方だと読む気がしなくなると思いますので、本の「まえがき」にも書いたのですが、自分としてはできる限り短く、やさしく、普通の日本語で書くことを心がけたつもりです。

実は、この本の挿絵を描いてくださったイラストレーターさんが、一昨年に亡くなってしまいました。本当に残念ですが、遺作とも言えるような可愛らしいイラストをたくさん載せることができました。そして、第6章は実際にこれを使っていただいた取り組み事例に充てています。その中では、この後すぐに事例報告をしてくださる「NPO浦安防犯ネット」の村瀬さんにも、ご自身で執筆いただいています。是非、手に取っていただければと思います。

さらなる普及のために： 入門書の刊行

- 『聞き書きマップ』の学術的基盤から具体的実施事例までを一覧
- 「短く、やさしく、ふつうの日本語で」
- 第6章「取り組み事例」
 - ▶ 取り組みの現場の実施者5人に執筆を依頼
 - ▶ 柏市立田中北小学校（もと十余二小学校）
 - ▶ NPO法人こども・みらい・わこう
 - ▶ NPO浦安防犯ネット
 - ▶ 厚木市役所
 - ▶ 秩父市役所



もう一点ですが、どうしても「デジカメ」と「ICレコーダー」と「GPS受信機」の3つを個別に使うと、データの取り込み等で面倒な箇所が残ってしまいます。

これが長年の懸案でしたが、今年の6月によりやくスマホ版としてアンドロイド用とiPhone用の『聞き書きマップ』を公開することができました。

ですから、既にアンドロイドやiPhoneなどのスマートフォンをお持ちの方であれば、App Store等で「聞き書きマップ」という名前で検索して、ダウンロードしてインストールしていただければ、今日すぐにでも使えます。そういう形で手軽に使っていただけるものを、これからもさらにお勧めしたいと考えています。

こういったことも含めた私たちの研究成果の公開ページですが、こちらの「予防犯罪学推進協議会」が運営しているページになります。何とか新しい情報を少しずつ出していきたいと考えています。一番新しい情報をご覧くださいには、このアドレス (<http://www.skre.jp>) をインターネットで検索していただければ良いかと思います。

おかげさまで、始めてから7年ほどになりますが、累積のアクセス数が14万5,000を超えています。また、フェイスブックにも「予防犯罪学推進協議会」のページを作っているのですが、「いいね！」をいただいた数が111ほどになりました。当初は、1万アクセスで100「いいね！」があれば良いと思いましたが、当初思っていたよりも皆さんに見ていただいているようで、自分たちとしても大変嬉しく思っています。もっと多くの方にやさしく無理なくご利用いただけるよう、さらに一段と頑張っていきたいと考えております。

最新情報は、 こちらから:

- 「予防犯罪学推進協議会」のウェブサイト

▶ <http://www.skre.jp/>

- 2018/10/25現在
- ▶ 累積アクセス数 14万5,678
- ▶ FBページの「いいね」は111

The screenshot shows the Skre.jp website interface. At the top, it says 'Skre.jp 被害が変える子どもの被害防止'. Below this, a visitor count is shown as '000145678 人回' (145,678 visitors). The main content area features a large illustration of children and a headline: 'リスクを知って、無理のない対策へ'. Below the illustration are four buttons: '理論を知る', '被害を知ると子どもを知る', '情報を分析する', and '対策を考える'. A 'お知らせ' (Notice) section is visible at the bottom, with a recent notice dated 2018/06/20 regarding the release of the iOS version of the '聞き書きマップ' (Listening and Writing Map) 1.0.3. The footer includes the logo for CPPC (Child Protection and Prevention Center) and the text '予防犯罪学推進協議会'.

これからの時代は防犯パトロールについても、せっかくですから「誰がいつどこを歩いてどうだったのか」ということが記録になって、皆さんのお取り組みが他の人にもパッとわかり、ピンと来てもらえるようになればもっと良いと思います。

こういう「デジカメ」や「録音機」「GPS受信機」を、もしくはそれを全部まとめた「スマホ」を持って歩いていただくことで、皆さんの取り組みが誰の目にも「なるほど」と思ってもらえ、見てわかりピンと来るようなものになるよう、そのお手伝いを私たちも是非行いたいと考えています。

それが、私が本日提案させていただいた「(すこし科学的な)防犯活動」の、1つの行き方ではないかと思えます。

●まちの健康診断

最後に、一言だけこんなことを申し上げたいと思います。大人でも子どもでも、病気の予防のために、誰でも普段から健康診断をなさっていると思います。体の健康診断と同じように「まちの健康診断」という考え方も、是非この機会に提案したいと思います。

被害を未然に防ぐのはなかなか大変ですが、やはり、それを実現させるためには、無理なく長続きができる形で、地道な被害予防を続けていくことが必要だと思います。

「まちの安全の健康診断」という考え方で、是非これからも皆様の本当に貴重な取り組みを、さらに進めていただければと思います。私からのお話は以上になります。ご清聴ありがとうございました。



6. 第2部 事例発表（1）

①小学校での取組事例

テーマ：地域と子どもがつながる防犯教育の在り方 ～『聞き書きマップ』を活用して～

講師：成田市立向台小学校 教諭 黒田 智哉 氏

皆さん、こんにちは。成田市立向台小学校の黒田と申します。普段、子どもたちを前に話をするのは慣れていますが、本日大人の方を目の前に話をするので緊張しております。何か言葉等でわかりにくいところがありましたら、申し訳ありません。ちなみに成田市の方はいらっしゃいますか。いらっしゃいますね。ありがとうございます。それ以外の地域の方もたくさんいらっしゃるのですね。

成田市立向台小学校は、成田駅の出口を成田山とは反対側に出て約2キロの位置にあります。学区はそれほど大きくなくて、学校から半径500メートルほどの比較的小さな学区です。子どもたちの数は大体1学年2クラスで、1学年の平均が50名ほどの学校になります。あまり大きな規模の学校ではありません。地域はほぼ住宅地で、戸建て住宅や団地、マンションが並んでいる地域になります。

今回ですが、昨年度実施の授業と併せて今年度も行なっておりますから、その授業についても併せてお話をしたいと思います。はじめに、防犯教育を学校で実践して得られた成果について、少しお伝えします。

●防犯教育の成果

では、成果の1つ目です。場所を見て判断する力を「景色解読力」と言いますが、児童に「この力を高めたい」という意識が身につきました。2つ目には、子どもが地域の方と新たなつながりを作ることができました。3つ目としては、地域の方が学校に関わるきっかけにもなりました。この3つについて、これからお話をしたいと思います。

こちらは昨年度実施した授業の概要です。授業は、①「景色解読力について知る」、②「景色解読力を使って調べる」、③「景色解読力を伝える」という3つの段階で組みました。この授業の中で、先ほどご紹介のあった『聞き書きマップ』が役に立っております。

① 「景色解読力」 について知る

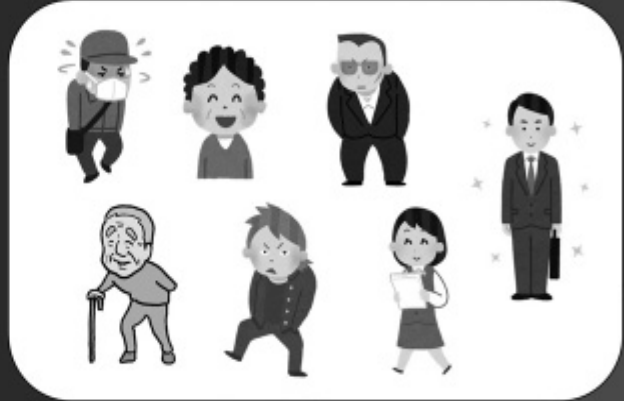
① 景色解読力の理解。

- ・ 「不審者」 イメージの崩し。



児童のもつ
「不審者」のイメージ

◎ 誰が「不審者」？



まず、「景色解読力について知る」という段階です。はじめに、子どもたちに「不審者はどんなイメージですか」と聞いて絵に描かせると、ほとんどこういう絵を描きます。大体サングラスをかけて、マスクをしていて、帽子をかぶって黒い服を着ているというのが、子どものイメージです。そこで、まずはそこから崩さないといけなかったと思います。

次に、このようなイラストを出して「この中で犯罪をしそうな人は誰ですか」と聞きました。ここで子どもたちは「人は見た目では判断できない」ということを学びます。これを受けて、人は見た目では判断できないため、「犯罪に遭いそうな場所には行かないことが大事だ」ということを最初に学びました。

そこで、どのような場所が犯罪に遭わない場所なのか、逆に犯罪に遭いそうな場所はどういう場所なのかという視点で授業を進めていきました。

はじめに行なったのは、写真を見て比べることです。実はこれは同じ場所の写真ですが、右側と左側を比べると左は情報がわかりにくいですね。

本当に危険なのかどうか、それがわかりません。そこで、子どもたちに見る力をつけさせるために、まずは写真を使ってこのような学習をしました。

① 「景色解読力」について知る

① 景色解読力の理解。

- ・ 写真を見て、「入りやすい、見えにくい」の根拠を探し、理解を深める。

壁の高さのこと
しかわからない



高い壁



木が多くて
見えにくい

写真を比べることで、「入りやすい、見えにくい」
はいくつか条件が重なって判断できるということがわかる。

左側は壁の高さしかわかりませんが、右側は高い壁のほかに反対側に木が多くて見えにくいことがわかります。こういう挟まれた場所が「入りやすく、見えにくい場所」であることに、子どもは気づくことができました。この学習をしてから、フィールドワークに出かけました。

● 『聞き書きマップ』のメリット

そして、このフィールドワークの時に『聞き書きマップ』を使いました。先ほどのお話にもありましたが、『聞き書きマップ』の良さは、地図を持たなくてもフィールドワークができることです。小学校4年生で実施したのですが、今いる自分の場所と地図上の場所を照らし合わせることが4年生ではとても難しいのです。

それで、この写真のように地図を持たずに街をぶらぶら歩きながら調べられるのは、子どもたちにとって授業目的を外れずに実施できるため、とても良かったと思っています。

また、マイクにどう話せば良いかわからないこともあるため、このようにセリフの型を決めて、下線の部分をその場に合わせて自分たちで考える形に変えました。これによって後から録音を聞いた時にも、自分たちですっきりと確認することができます。

そして、フィールドワークを終えてから『聞き書きマップ』を使い、このようなメモの入った写真を出します。先ほどのお話にあったかもしれませんが、『聞き書きマップ』を使うことで、録音を聞きながらパソコンでメモが打てるのです。右下にあるのは、子どもが手書きで書いた写真のメモですが、本来はここにパソコンで文字を打ち込むわけです。ただ、小学生ではパソコンで文字を打つのは大変ですから、割り切って手書きにしようということで、このような形にしました。

それでは、授業の実際の様子を少しお見せしたいと思います。これは今年度実施したものです。1つ目として左上の動画を今から流しますが、見てわかるように子どもたちは地図も何も持っていません。暑くなった時のために水筒ぐらいで、あとはカメラだけを持ってほぼ手ぶらで歩いています。つまり「何を見るか」だけを考えながらフィールドワークを行なっています。では、ご覧ください。

【動画再生】

(子ども) 見える。どっちかって言うと、見える。

(子ども) 超見える。超見える。

(黒田氏) 確かにね。壁だけど透明な壁というのが少し工夫されているかもしれないね。

(子ども) 危険、危険。ここは危険。

(黒田氏) では、こっちの方があれ(危険)なのかな。

【動画終了】

今お気づきのとおり、同じ駐輪場でも子どもには見方が変わってくるのです。透明な方がまだ反対側からも見えるので、どちらかと言えば安全に見える。そして、2つ目に見えている奥の方が危険であると。こういうことを、子どもたちは次々と自分たちで発見していきました。

2つ目として中央の写真の動画を今から流しますが、各グループには地域や保護者の方1人に同行いただいています。今年度は2年目ですが、去年よりさらにパワーアップして、かなりいろいろなことを教えてくれました。地域の人しか知らないことを教えてくれた場面を、ちょうどビデオに撮ることができたのでお見せします。

【動画再生】

(地域の方) ここは見えなかった時があったの。それで9月にね、あそこに電柱があるでしょう。あそこにちょっと飛び出ているものがあるでしょう。

(子ども) はい。

(地域の方) あそこに防犯灯がつけました。

(子ども) へえー。

【動画終了】

今、最後に見ていただいたところは、挟まれていて「とても入りやすく、見えにくい」という危険な場所です。子どもたちは昨年度もこちらの写真を撮ってチェックをしました。地域の方にも一緒にチェックしてもらおうと、やはり「ここは危険だ」ということで

した。真っ暗だったのですが、今年は何とここに新しく電灯がついたそうです。このように変わって来ていることも、フィールドワークに行き初めて教えていただきました。

子どもたちが動いている時間と、地域の大人が外に出ている時間が違うので、子どもが知らないことも地域の方が教えてくれますし、逆に地域の方が知らないことも、子どもが教えてくれます。そういうことがフィールドワークで上手くできたと思います。

3つ目のビデオです。この方も去年行っていただき、今年も行っていただいた方ですが、子どもたちに先生のように教えてくれている場面があるのでご覧ください。

【動画再生】

(子ども) 暗くなったら危険だから。

(地域の方) もう1つ、向うにも駐輪場があるよね。向うの駐輪場とこちらの駐輪場を比べてみてごらん。

(子ども) 壁が低い。

【動画終了】

最後の子どもの発言が聞こえましたよね。「壁が低い」と言ったのです。こちらと比べ、あちらの方が壁が低いと。つまり、新しい駐輪場は工夫されているが、古い駐輪場は工夫されていないという違いを地域の方が知っていて、子どもたちが気づくように「では、あちらの駐輪場はどう」と促してくれたわけですね。このように地域の方と一緒にフィールドワークをすることで、子どもたちの新たな知識の獲得につながりました。

これは昨年度の子どもたちの最後の「振り返り」ですが、このような記述がありました。「授業の中で安全なところと危険なところのキーワードとして『入りやすく見えにくい』というキーワードを知ったことで、今は身近な場所でも危険か安全かを判断できるようになった」と、気をつけるようになったということです。以前は「いかのおすし」というのを守れば大丈夫だと思っていたけれど、この学習をすることで「いかのおすし」だけで安全は守れず、「場所を区別して判断することが大切だ」と、子どもたちは感じていました。

●『聞き書きマップ』のメリット

この子は、「地域の方にインタビューをしたら、知らなかったところも知ることができた」ということで、フィールドワークを通じ知らないことをたくさん知ることができたという良さがありました。それを受けて昨年度は4年生から3年生に向けた防犯教室を、体育館を使って行いました。その様子をご覧ください。こちらが、子どもがまとめたマップになります。

【動画再生】

(子ども) テニスコート、成田警察署のところ、駐車場、林とトイレ、あとは草むらです。他にもいろいろ…。

【動画終了】

ちょうど地域の方に見ていただける機会と重なったので、これは地域の方にも一緒に見てもらいました。先ほどの『聞き書きマップ』を使い、模造紙にこのようなマップをまとめて発表をしました。今まで全部アナログで地図作りをしていた時は7時間も8時間もかかっていましたが、『聞き書きマップ』を使うと2時間ほどで完成できて、マップづくりがとても簡単にできました。そして、その分の力を発表に使うことができました。ここで2つ目のビデオを見てほしいと思います。

【動画再生】

(子ども)防犯紙芝居のはじまり、はじまり。ちはるさんは学校…。

【動画終了】

このような紙芝居も作りました。4年生が3年生に教えるので、わかりやすい形として「紙芝居にしよう」という話となり、子どもたちが工夫をして伝えることができました。そして、このグループは紙芝居で終わっただけでなく…。

【動画再生】

(子ども)紙芝居にしようと感じたところですが、木が多いところは隠れやすく、駐輪場は狭く暗いので隠れやすく、道路は角に隠られるので危険です。これらの場所はすべて「入りやすい、見えにくい」という場所です。このキーワードを意識して、不審者にあわないように気をつけましょう。

【動画終了】

このように、4年生がまるで先生であるように3年生に教えていました。この地図を作って、それを使って教えるのですが、それによって教えている子どもたちの知識が次第に大きくアップするのです。教えることに力を入れたのは、『聞き書きマップ』を使ったおかげだと思います。このように伝えることで学びが深められるのです。

そして、今までの防犯マップと違う点としては、先ほども言ったように地図での確認が必要ないために、目的がとてもシンプルになることです。学習目的からそれずに、わかりやすく授業を進めることができました。まとめも簡単なので「伝える」ということに力を

入れることができました。

また、先ほどのビデオにあったように、地域の方の役割がとてもわかりやすくなりました。今までの防犯マップづくりでは、道案内に精一杯で帰って来ることもあったのですが、道案内ではなくて、地域の方から伝えたいことをしっかりと伝えてもらえるような、そういうフィールドワークにすることができたと思います。

●『聞き書きマップ』を通じ、地域防犯が活性化する

また、地域の方と学校との関わりで何が生まれたかと言うと、私の学校は昨年4月までスクールガード（地域の見守り）という組織がありませんでした。しかし、フィールドワークでこの単元を行うことをきっかけに、「スクールガードを立ち上げよう」ということになりました。

そして、立ち上げてみて、「この単元のためご協力いただけませんか」と、当時スクールガードに所属していた方のお友だちを誘って、次々と輪を広げていきました。現在では、当時から比べると5倍、6倍の方がスクールガードに登録をしてくれています。この授業を通じて、スクールガード（地域の見守り）活動が活発化されていることは事実です。

そして、週に1回のあいさつ運動を校門の前で行なっています。そのあいさつ運動には、地域の方も参加してくれますが、フィールドワーク以前は月に1回ほどしか会わないため、子どもたちにも「話しかけにくい」という気持ちがありました。

しかし、フィールドワークに行くと1時間ほど一緒に話をしながら歩くので、子どもと地域の方の仲が良くなります。それで、あいさつ運動等で会えば気軽にお話している姿もたくさんあって、地域の方とのつながりがすごく深くなったと思っています。併せて、私も含めた教師と地域の方の距離もすごく縮まったと思います。今では学校の内外で会うと、以前に比べて気軽にお話のできる人がかなり増えたと感じています。

このように、利点がたくさんある『聞き書きマップ』ですが、学校が急に導入するとなれば難しいのが現状かと思っています。学校の先生たちも、この良さをまだまだ知りません。導入するのは難しいかもしれませんが、学校によく行く機会のある方がいらっしゃれば、今日のチラシでも良いのでお持ちいただき「こんなものがあるよ」と知らせていただくと、学校でも興味を持って「やってみようかな」という先生もいらっしゃるかもしれません。是非、ご紹介いただければと思います。

先ほど機器は安くできるということで、GPS受信機等は比較的安いというお話がありました。昨年度、本校ではPTA主催のバザー収益金で購入をしました。15台買っても約5～6万円でしたから、1年に1回のPTAバザー収益金等でも一式を用意することができます。また、それからずっと使えるので、比較的取り組みやすいものだと

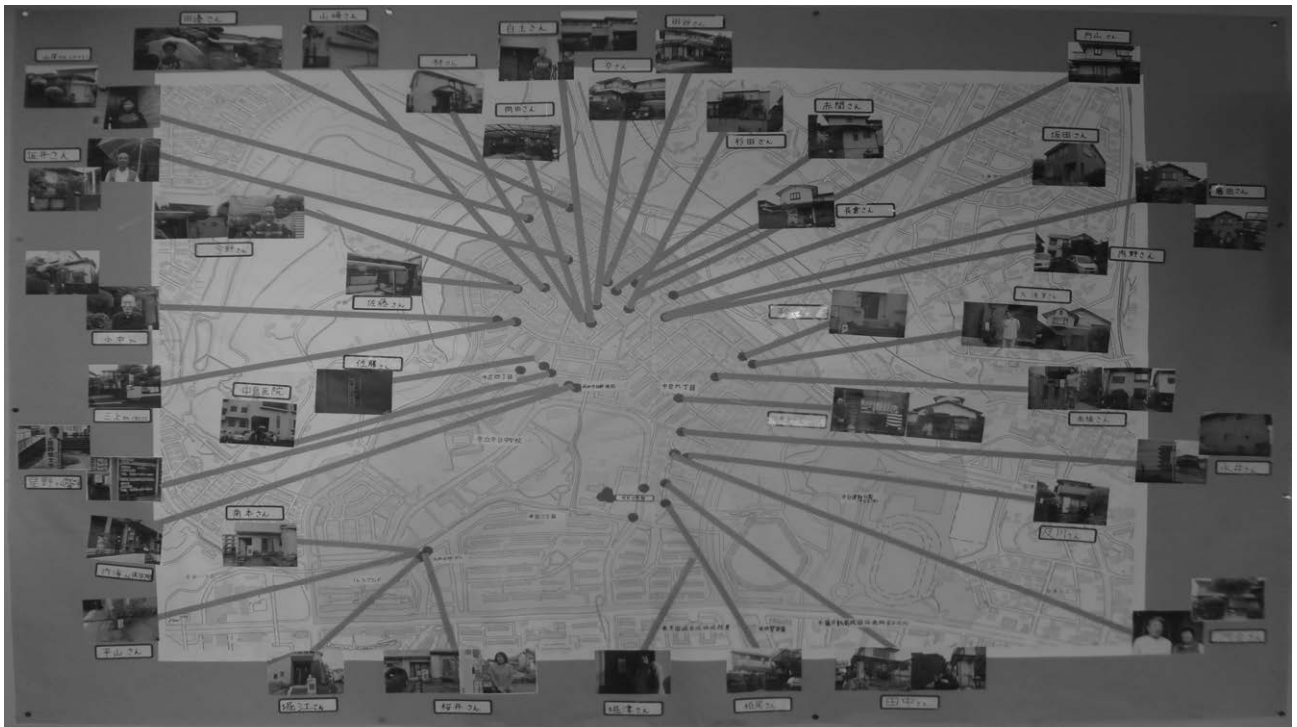
思います。もし、学校に行く機会があれば、是非、学校にも紹介してあげてください。

●『聞き書きマップ』の更なる応用

この『聞き書きマップ』ですが、防犯マップ以外にも、実はこういう使い方もできます。2年生の生活科では「まちたんけんに行く」という単元があって、お店に行ったりします。その際、子どもたちにはGPSとカメラを持って行ってもらいました。これを使うと、その結果がこうした地図となり、どこでどういう写真を撮ったのか全部見えてきます。このまま貼るだけで発表資料として活用できますから、2年生の子どもたちにも2年生の先生方にもかなり好評でした。こういう使い方もできるという良さがあると思います。

さらに、昨年度は5年生の活動として「子ども110番の家」を探す取り組みも行なってみました。保護者の方にアンケートを取って「子ども110番の家を把握して、お子さんに伝えてありますか」と聞いてみたのです。そうすると「子ども110番の家」は、合わせて20%のご家庭しか子どもとの共通理解が図れていないことがわかりました。学校にも「子ども110番の家」のリストがありますが、どういう人がいて、どこにその家があるのかを正確には把握していませんでした。

そこで、これは良い機会だと思って、5年生と「子ども110番の家」マップを作ってみました。実際に作ったマップがこちらになります。本来であれば住所から地図を検索し、その家に行くという大変な作業があります。さらに、戻って来てから地図上の場所を探し、写真を貼るという大変な作業がありましたが、フィールドワークの際に『聞き書きマップ』を使うことで、行った後の作業がとても簡単になり、子どもたちも「学区の中にこんなにたくさんあったのだ」と、認識することができました。



今、これを学校の昇降口の子どもたちが全員通るところに貼っています。「うちの近所にこういう所がある」と、子どもたちが知ることのできるきっかけとなり、とても良い取り組みだと思いました。今年は、こちらを敢えて3年生で実施しようと計画をしています。

まずは3年生で地域の方とつながりを作り、それを受けて4年生では地域の危険な場所を探しに行きます。さらに言うと今年は5年生で、交通安全の視点からフィールドワークを試みたいと思っています。そして6年生では総合的にフィールドワークをしながら、「地域の改善プラン」というものを、地域に向けてプレゼンしたいと計画しております。

このようにいろいろな活用ができる『聞き書きマップ』なので、もし学校によく行かれる方がいらっしゃいましたら、是非、学校にもご紹介いただけると嬉しく思います。以上です。

ご清聴ありがとうございました。

7. 第2部 事例発表（2）

②防犯団体での取組事例

テーマ：安全なまちづくりと地域力

～防犯活動で人と人を繋ぐ安全の架け橋～

講師：NPO浦安防犯ネット 代表 村瀬 恵子 氏

皆様、こんにちは。浦安市から参りました。皆様もご存じかと思いますが、チーバくんと言うとちょうど舌辺りが浦安市になります。それでは、私が15年間行なってきた防犯活動の取り組みについてお話をしたいと思います。かなり緊張していますが、よろしくお願いたします。

まずは目次です。6つの項目からお話を進めたいと思いますが、私たちが立ち上げた防犯活動から、『聞き書きマップ』の将来への展望についてお示ししたいと思います。先ほど司会者からご説明いただいたので、自己紹介のスライドは割愛させていただきます。

●日本一犯罪が多いまち

刑法犯総数

平成13(2001)年刑法犯認知件数（上位10位まで）

	神奈川県			千葉県			埼玉県		
	市	件数	率	市	件数	率	市	件数	率
1位	厚木	7,163	329.532	浦安	5,645	424.487	戸田	4,324	400.226
2位	海老名	3,455	293.995	成田	3,412	356.516	蕨	2,804	394.579
3位	大和	5,826	273.828	千葉	30,860	347.850	川口	15,385	334.437
4位	平塚	6,883	270.311	東金	2,024	339.569	草加	7,293	324.107
5位	綾瀬	2,137	263.765	市原	9,198	330.604	岩槻	3,499	320.283
6位	伊勢原	2,591	260.287	習志野	4,941	320.769	八潮	2,337	311.791
7位	相模原	14,884	245.789	市川	13,872	309.200	越谷	9,494	307.940
8位	座間	3,043	242.096	船橋	16,619	302.123	和光	1,958	279.037
9位	藤沢	9,085	239.593	八街	2,150	296.164	熊谷	4,309	275.836
10位	小田原	4,415	220.559	旭	1,176	278.088	朝霞	3,285	274.409

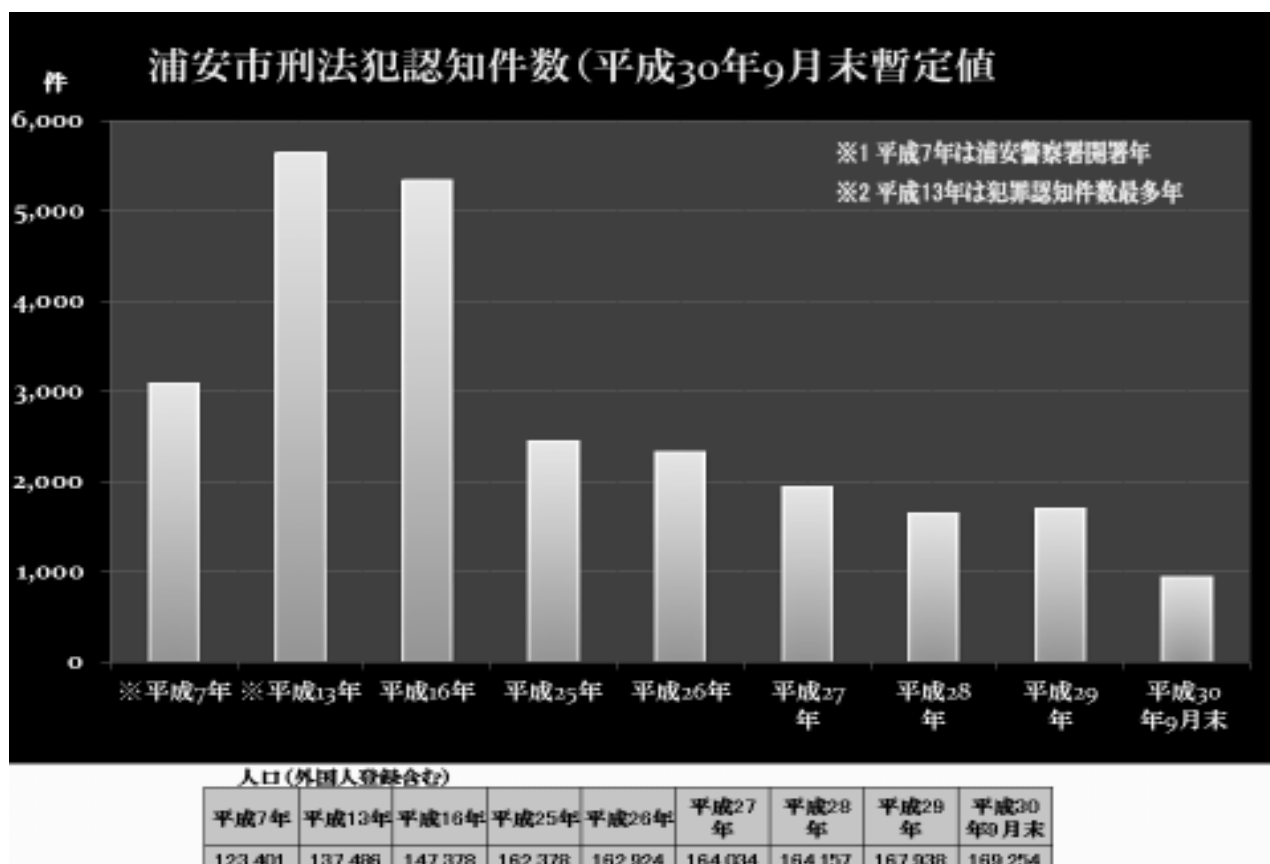
私たちNPO浦安防犯ネットが立ち上がったのは、平成16年6月です。平成13年には、『読売ウイークリー』に「日本一犯罪が多いまち」として載ってしまいました。不

名誉なことですね。当時、私たちの子どもが通っている近隣では不審者情報が非常に多かったことを覚えています。露出狂や刃物男までが出る騒ぎもありました。そこで「何とか子どもたちを守りたい」というところから、私たちは防犯団体を立ち上げました。

当時、防犯団体を立ち上げた時に、ちょうど私の主人が交通事故に遭いました。このまま続けて良いかと悩んだ時に、警察の方や行政の方、そして地域の方に支えられました。今まで何とか活動を続けて来られたのも皆さんのおかげだと感謝しています。

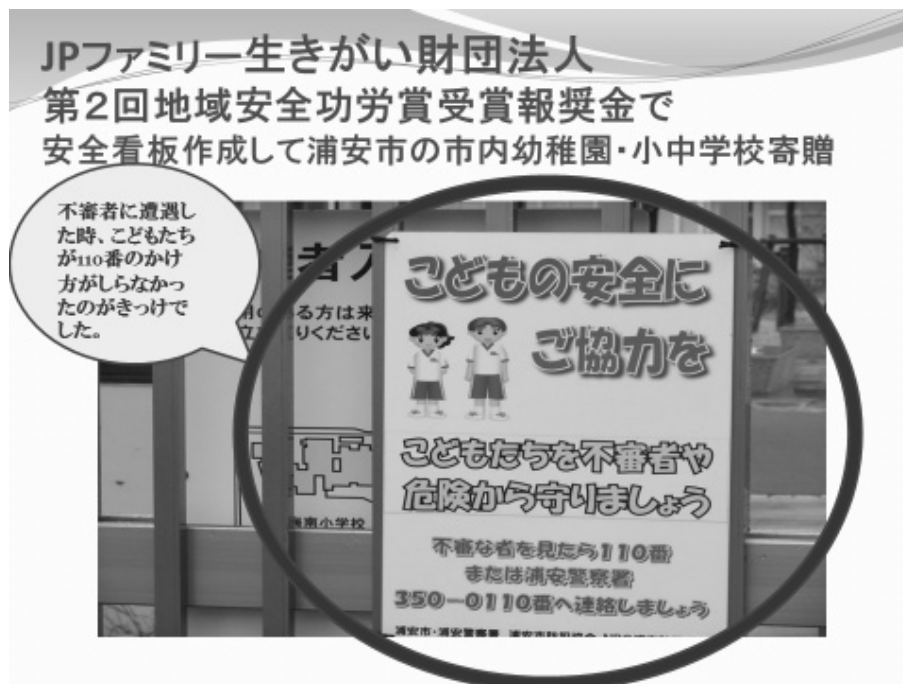
お示ししたスライドは、今まで15年間にわたり私たちが行なってきた防犯活動になります。子どもたちは新1年生になると、浦安市では防犯ブザーを寄与されます。そこで、そのブザーを使った危機回避トレーニングを実施したり、不審者から身を守るトレーニングを開催しました。

やはり一番は青色回転灯です。最初は認知度が低くて、石や缶を投げられました。また、ある時は徐行していたら急に前方で車を止められ、かなりの罵声を浴びせられたこともあります。しかし、そこから次第に認知度が高くなると、逆に子どもたちが手を振ってくれたりして、パトロールをするやりがいも感じることができました。



これは先ほどお示しましたが、『読売ウイークリー』に載った不名誉な犯罪件数です。一番多い時で5,000件の犯罪を浦安市は堅持していたようです。今では防犯団体も立ち上がって、警察、行政、市民活動が一体となりました。平成13年から比べると、暫定ですが今年の9月末までで、このように犯罪が減少しています。

そして、私達団体が防犯活動で賞をいただいた時に、子どもたちから「110番の仕方がわからない」という話を聞いて、市内の小学校、幼稚園、学童クラブにこういう看板を設置することができました。



●多様な防犯活動

また、青色回転灯のパトロール以外で、私が年1回力を入れているのがカウントダウンパトロールです。皆さんご存じですが、ディズニーランドが12月31日から新年に向けて、カウントダウンの花火大会をします。そうすると、他市、他県から見学のため非常に多くの路上駐車等がごぞいます。何とか安全に皆様楽しんでいただけるよう、青色回転灯で11時45分頃にスタートします。終わりは3時頃でしょうか、そういった形で市内のパトロールをしています。

また、市内の犯罪を少しでも減少したいと考えて、一門一灯運動を呼びかけています。これによって街がかなり明るくなりました。不審者や空き巣、ひったくり等も防げると思います。私たちのこういった防犯活動がその一助になればと思い、子どもたちと企業と私たちがタッグを組んだ防犯活動を、皆様にお示ししたいと思います。



【動画再生】美和ロック（鍵の企業）さんによる小学校5年生向けの防犯教室の様様（自宅での留守番編）

(講師) 次に、嫌がらずにゴミ捨てなどのちょっとした時にも必ず鍵をかけるということです。みんなもゴミ捨てをしたりしますか。ゴミ捨てをする人は、家の近くのゴミ捨て場だから「ちょっと行ってきます」と言って、10秒、20秒、もしかしたら5秒かもしれませんが、その間に悪い人が見ていたら、家の中はどうなりますか。

(子ども) 入る。

(講師) 入ってしまうかもしれないよね。急いで入って、下駄箱の中にこうして隠れてしまうかもしれません。だから、みんなもちょっとした間でも嫌がらずに、ちゃんと鍵はかけてくださいね。

【動画終了】

はい。こういった形で企業とタッグを組むことによって、子どもたちの安全・安心につながる防犯教室を繰り広げることができます。私たちはこういうネットワークをつくりながら、いろいろな方を結びつけることが最大限のいろいろなパワーにつながっていくのだと、痛感しています。

次世代の子どもたちを地域で守るには、やはり大人や子どもだけでは守れませんから、行政や警察、時には自衛隊等のお力も借りながら守っていかなければいけないと感じています。

そこで、私たちは中学校等でインターネット安全教室を開催したり、小学校の子どもたちには連れさら防止のような教室を開催しています。あとは、こういった防犯活動をどのように面白く続けていけば良いかと考え、芸人による防犯ライブを開催しました。先ほど県の方がおっしゃっていた「振り込め詐欺」ですが、浦安でも実に多いのです。これを何とか防ぎたいと思いながら、少しでも身近に感じていただけるように、こうしたお笑い芸人の方を通じ、防犯ライブを面白おかしく繰り広げていただきました。

私たちは設立10年目に、市民の啓蒙活動と情報の受発信ということで、全国大会を開催させていただきました。この時は千葉県警察音楽隊の皆様方たちにも協力いただきながら、また日本市民安全学会の皆様にも協力いただきながら、全国から集まっていただきまして、大会を開催いたしました。

●『聞き書きマップ』との出会い

先ほど、原田先生や黒田先生からもお話がありましたが、私と『聞き書きマップ』との出会いは、ちょうど防犯活動を始めた9年辺りからです。その頃は防犯活動の壁にぶち当たり、「青色回転灯だけではなかなか難しい」「防犯活動だけではやはり難しい」と感じていました。そこで「何かないかな」と考えて、日本市民安全学会に入った時に原田先生と出会いました。

そして、厚木市に行った時に、初めてこういったITを駆使した形ができることを痛感したのです。これはなぜ良いかという、安価で気軽にできるからです。そこに魅力を感じています。防犯活動だけでなく、普段私は救急の医療現場で働いているのですが、将来の高齢化社会に向け、認知症の患者さんにもこういったものが徘徊統計として使えるのではないかと期待しています。

これからお示しするスライドですが、今は「市民安全課」と名前を改めましたが、浦安市の行政の方、警察の方と青色回転灯を使って浦安市内の4キロ四方を回り、一緒に『聞き書きマップ』を作成しました。



そこで気づいたことは、4キロ四方の浦安市内では当時ひたくりが横行していたのですが、浦安市と市川市が土手沿いに一直線であるため、バイクで逃げやすいということでした。この『聞き書きマップ』を使うことで、犯罪の横行しやすい場所等の点検にもつながっていくのだと、痛感しています。

これは子どもたちと一緒に通学路の点検をしているところです。大人目線と子ども目線の違いをはっきり感じたのが、この通学路の安全点検でした。私たちが「ここは非常に暗くて危ないかな」「ここには不審者が出るのではないかな」と思ったところは、実はそうではありませんでした。

逆に、子どもたちが得意げに「実は、ここには浮浪者が多んだよ」「ここにはゴミ捨てが多んだよ」と、多くの具材を提供してくれました。

そして、普段私たちが通らないところを歩きました。スライドでお示しした赤い丸印の部分は、子どもたちの通学路です。傘で突っついて（教えてくれたのですが、）腐敗した穴があって、子どもの頭が入るぐらいの大きさでした。この情報を市の方に提供して、今ではきれいに直していただいたこともございます。

そして、科学警察研究所の先生方や、行政の浦安市、ボランティアの方たちで、市内の日の出地区を、こちらは被災をして今は復興したのですが、そういうマンション群の多い場所での危険箇所も点検しました。皆さんもご存じのように、浦安市では東日本大震災の時に液状化の被害に見舞われましたが、将来的にはこういった防災関係にも『聞き書きマップ』が役立つのではないかと思います。皆様のお力添えにより、今はこのような形で無事に復興させていただきました。

私たちは、千葉県警察の皆様には本当にお世話になっていて、いろいろな情報提供やご協力をいただいています。また、被災時には自衛隊の方にも給水していただきました。そういう様々な形で、やはり官民協働ではありませんが、ネットワークが生み出す力によって私たちの安全・安心が守られていることを痛感しています。

また、私たちの団体が力を入れているものに、セーフティコンサートがあります。



年に1回開催していますが、ここでは一番多い「振り込め詐欺」について、寸劇を通して皆さんに身近に知っていただくよう市民への啓蒙活動を行っております。本当にありがたいことですが、皇宮警察や東京消防庁、自衛隊などの皆さんにも出演して頂き、特に千葉県警察音楽隊の方々には14年間継続してご出演いただいています。心より感謝申し上げます。

●「コラボ」の可能性

これからは「一般の方にどういう形で安全・安心を伝えていくのか」を念頭に置いて、私たちはこういった活動を続けていきたいと思っています。やはり、いろいろな機能や役割を官民協働で社会化連携することが、防犯活動の継続につながるのではないかと思います。皆さん、これから避けては通れない問題に「防災関係」もあると思います。私たちは防犯だけでなく防災・防犯の両輪から、そして市民の安全・安心のために、日本全体が社会化連携をしながら、安全・安心なまちづくりに努めていきたいと思っています。

子どもたちの力は非常に大きいです。音楽やこのような活動を通じて、私たちも逆に力をいただいています。いま私には孫がいますが、孫たちの世代まで未来永劫、安全・安心な社会であってほしい願いを込めて、活動を続けていきたいと思っています。

皆さんがこうしてコラボを組むことにより、今まで夢だったものが現実のものにつながります。そして楽しく面白く、時にはつらいこともあるとは思いますが、皆さんの力をいただくことで続けられるのではないかと思います。そして、続けることで少しだけご褒美をいただくこともあります。

●今後の展望

私たちの防犯活動も15年目を迎えましたが、これからも考えたいのは、どうしたら活動を続けていけるのか、どういう人たちを巻き込みながら続けていけるのかということです。自分たちの安全・安心だけではなく、子どもたち、次世代、高齢者、障害者が安全で安心に過ごせるような社会づくりのため、これからは皆さんと面白おかしくつながっていききたいと思っています。『聞き書きマップ』をさらに進化させながら、有効的なものにつなげていきたいのです。そして、できればこれを授業の一環とすることで、子どもたちにはスムーズに受け入れられていくと思います。

ところで、私たちの世代になると中年は何を考えるでしょうか。健康ですよ。これからは皆さんに健康で居続けていただくために、ランパト隊を結成したいと考えています。実は先日も走ったのですが、2時間のうち約10分しか走れませんでした。やはり自分の体力が落ちていることと、パトロールの際に走るのと歩くのとでは、見る世界や感じる世界が全く違うことを実感しました。皆さんは地域で活躍されている方だと思います。できる時にできる場所で、できる形で続けていけば、防犯活動を通じて皆さんのネットワークづくりや、未来永劫の安全・安心な社会づくりにつながるのではないかと思います。

結びに、これからは子どもたちの安全・安心な地域まちづくりが重要であると感じます。そして、防犯・防災の両輪が構築されて、次世代に向け地域全体と皆さん全体がつながることが大切であると思っています。顔が見える連携は心がつながっていきます。そして、皆が

つながることは最大限のパワーにつながりますから、有事の際にも最大限に皆さんの力が発揮できるのだと思います。

最後になりますが、これから『聞き書きマップ』の可能性は大きいと思います。そして、今こちらにいらっしゃる皆さんは、先陣を切って頑張ってくられた先輩であり、防犯活動に取り組んでいただいた方たちですから、本当に宝だと思っています。これからも地域で伝承を続けていただきたいと思います。私たちも人材育成に力を入れながら、これからも活動を続けたいと思います。今後も挑戦してまいりますので、これからもよろしくお願い致します。

ご清聴ありがとうございました。

8. 質疑応答・統括

講師：科学警察研究所 犯罪行動科学部犯罪予防研究室

特任研究官 原田 豊 氏

再び登場いたしました原田です。

いかがでしたでしょうか。お二方は本当の現場ということで、学校教育の現場と地域に根ざした防犯NPOの現場で、独自に力のこもった取り組みをしてくださっている方々です。そちらの角度からということで、現場の目を見た『聞き書きマップ』や、現場でのより広い取り組みの中で『聞き書きマップ』をどう位置付けるのかというお話をしてくださいました。

実は控え室にテレビがありましたので、私自身も発表を拝見しながらこっそり勉強して、メモを取っていました。やはり現場で使っていただけるのは、我々開発している者にとって、現場というのは多種多様ですから、その中から生まれた新しい知恵やノウハウ、アイデアをいただくことが、私たちにとっては大変貴重であり、次の一步を踏み出すためのヒントとなる気がします。

皆様に事前に質問として出していただいたものを拝読しながら、同じことを考えていました。私たちにとって皆様の側からいただくご質問は、自分たちが行なってきたことや今後行なっていくことに、どういう方向性を目指すべきなのか導いてくれるものだという気がします。事前にいただいたご質問ということで、2つほどお聞きしております。まずは、それについて自分の感想等を述べたいと思います。

●今後、AIやドローンを防犯に活用できるか？

ご質問の一点目は「今後、AIやドローンを防犯にどのように活用できるか」ということです。今は情報化の時代ですから、こういうものに関しては、いろいろな使い方や活用が驚くような形で展開していくと思います。

一方で、それが急速に進んできたと言っても、文字どおり人と人との出会い・つながりによる今までの防犯活動が、それに取って代わられることは絶対に無いと思います。また、それはあってはならないことだと思っています。

いかにAIの可愛らしいロボットが出てきても、それを人間と人間とのつながりに置き換えることはできません。ましてやドローンがブンブンいいながら飛んできて、そこでドローンとの会話等はできないわけです。つまり、顔の見える人間同士のつながり、言葉

によるコミュニケーションは、地域での人と人とのつながりを育み育て、地域全体としての総合力を高めるために絶対必要なのだと思います。

そういう意味でも、A I やドローン、その他情報技術と言われるものに一番できないものはそういうことです。ですから、共存共栄の可能性があったとしても、少なくともA I 等に全部取って代わられてしまうことは、そもそもあってはならないことだと思います。

●防犯活動で大事なことはなにか？

二点目として「防犯活動で大事なことはなにか」というご質問をいただきました。私はこの点に関して割とはっきりした考えがあります。何よりも「無理なく続ける」ということが大切だと思うのです。往々にして、大きな事件や事故があると「さあ大変だ」ということで「できることは何でもやろう」となりがちですが、そこで無理をし過ぎれば息切れをしてしまいます。

そうすると「忘れた頃に災害が起こる」と言いますが、疲れた頃に次の事件が起こることになりかねません。

最初の段階から、ある意味では全力疾走をしないといけない時期もあるかもしれませんが、もう少し息の長い形が大切なのだと思います。かつ、一年に一度ではあまりにも少ないと思いますから、それなりの回数を無理なく続けられるようにすることが大切なのです。当然ですが、どういう方が現場にいらっしゃるのかなど、様々な事情があるとは思いますが。

ですから事情の許す中で、できる範囲で無理なく続けることが一番大切ではないかと思えます。

加えて言うのであれば、せっかくの取り組みですから、それを1つの記録として残すことです。他の人にも「なるほど、こうだよ」と見てもらうことができます。例えば青色灯を付けた車によるパトロールでも、先ほどご紹介した『聞き書きマップ』の中で使っているGPS受信機のほか、単体のスマホにも今は全部GPS機能が付いています。

そういうものを使って「いつどこをどのようにパトロールしたのか」を記録できれば、他の人にも見ていただいて活動状況や取組状況を理解いただけると思えます。そういうことも含めて、できる範囲で少しずつ行なっていくことが必要なのかもしれない。そちらにも目を向けていただけると良いかと思えます。

さらにもう一点付け加えると、『聞き書きマップ』にしても、青パトにGPSを付けることにしても、一緒に活動している人たち全員がそれをできなくても良いのです。何人かのグループにそういうことの得意な人が一人ぐらいいれば良いのです。そういう意味では、知り合いや家族の方でも構わないのです。

●世代を超えた連携

私にも今年の春に孫が生まれました。孫は0歳なので無理ですが、息子世代なら頼めばパソコンへの取り込みもしてくれるかもしれません。そういうことで、次世代の人たちに「ちょっと頼むよ」「手伝ってよ」と声をかけて、チームに引き込むことができれば、新しい世代が皆様の取り組みの一員として育つことになるかもしれません。そういうきっかけとして考えていただけると嬉しいと思います。

平成30年度
地域防犯力の向上に関する交流大会報告書

編集：千葉県環境生活部くらし安全推進課
TEL 043-223-2333 FAX 043-221-2969
